

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年1月15日

協議会名: 安曇野市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
南安タクシー有限会社 安曇観光タクシー株式会社 明科第一交通有限会社 株式会社バイタル	「あづみん運行区域」 地域間幹線系統路線に接続する デマンド交通を9系統運行する	利用者に対しては乗込み調査を実施し、登録者の内未利用者・1回のみ利用者に対して返信型式でのアンケート(抽出)を実施し、利用状況及び課題の把握に努めた。	A	計画どおり運行できた。また、H27年3月に実施したアンケートでも9割以上の利用者からよい評価をいただいた。	B NW計画での目標値は「1日平均利用者数:420人、年間利用者数:102,900人」であるが、大雪の影響もあり、実績としては「1日平均:368.5人、年間:89,187人」であった。なお、昨年度は「1日平均:373.9人、年間:91,253人」であった。	今年度実施したアンケート調査の結果等を基に検討会を3月に設置予定。また、H28年度には「あづみん」導入時に行った内容に準じたアンケートを実施し、この8年間で利用実態がどのように変化したか等を把握し、改善事項につなげていく。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成28年1月15日

協議会名:	安曇野市地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>安曇野市は長野県中央部西側に位置し、人口は約9万8千人、面積は約332km<sup>2</sup>で、平成17年10月に5町村が対等合併し誕生した市である。北アルプスの山岳地帯と山間部、及び平たん部から構成されている。特に山間部などの中山間地で高齢化が進んでいる。</p> <p>当協議会では安曇野市内の居住地域内でデマンド運行を行っている。利用者の大半が高齢者及び障がい者であることからわかるとおり、交通弱者の足として定着している。また運行開始から8年が経過し、利用者も更に高齢化が進んでおり、一方で障がい者の利用が増え続けている。</p> <p>高齢者の住居は中山間地など道路が狭隘である区域が多く、また、乗降に時間が掛かるため1運行で多くの人に乗車いただくことが難しくなっている。一方、障がい者には料金割引があり、このことが利用料金収入の減少につながっている。これらのことから、「あづみん」の維持費用の財源の内、運賃収入の増加は多くは見込めないと見える。その状況の中で、運行に関する国庫補助金である等補助事業は、重要な財源であり交通弱者の足を守る点で、必要なものとなっている。</p> <p>必要な財源を確保しつつ、上述のデマンド交通「あづみん」と、その運行前の時間帯に異なる路線のJRの駅と駅を結ぶ通勤・通学者を対象とした定時定路線の組み合わせなどにより、生活交通ネットワーク構築を図っているところである。</p>

